

News Release

NTT 西日本



西日本電信電話株式会社

(報道発表資料)

2024 年 10 月 4 日

沖縄県南城市

西日本電信電話株式会社

NTT ビジネスソリューションズ株式会社

株式会社マクニカ

「南城市における自動運転の実証・実装に向けた調査事業」を開始

沖縄県南城市（市長：古謝景春）、西日本電信電話株式会社（沖縄支店長：古江健太郎、以下、NTT 西日本）、NTT ビジネスソリューションズ株式会社（沖縄ビジネス営業部長：古堅誠、以下、NTT ビジネスソリューションズ）は、「南城市における自動運転社会実装推進事業コンソーシアム協定」を締結し、令和 6 年度「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転社会実装推進事業、以下「本事業」という。）」に応募し、採択されました。

そしてこの度、3 者は、本コンソーシアム協定に基づき、自動運転 EV バスで世界をリードする株式会社マクニカ（代表取締役社長：原一将、以下、マクニカ）とともに、南城市における「地域住民向けの持続的な交通手段の維持」等の地域課題の解決に向けて、2024 年 10 月 12 日（土）から 10 月 18 日（金）まで、「南城市における自動運転の実証・実装に向けた調査事業」を実施します。

1. 背景・目的

全国において、地域交通の維持やドライバー不足等に関する社会課題が深刻化しています。こうした社会課題の解決策として、自動運転等のモビリティ技術を活用した持続可能な公共交通・物流の実現が急務な状況であり、国においては、2025 年度までに 50 か所以上、2027 年度までに 100 か所以上の政府目標を掲げ、取り組みが進められています。

また、南城市では、人口約 4 万 6 千人（2024 年 3 月末時点）に対して、主要観光地入域者数は約 42 万人（2024 年 3 月末時点）と観光業が盛んな地域であり、久高島や世界文化遺産に登録されている斎場御嶽といった国内有数の観光資源を有しています。

一方で、南城市では、地域住民および観光客の移動手段は自動車が中心のため、円滑な交通システムの確立が急務となっています。そのため、「南城市地域公共交通網形成計画」

を定め、2017 年度（平成 29 年度）から 2026 年度（令和 8 年度）の 10 年間を計画期間として、各種取り組みを推進していますが、地域社会の更なる活性化に向けては、「地域住民向けの持続的な交通手段の維持」および「観光客向けの二次交通手段の拡充」が主要な課題となっています。

こうした課題に対して、4 者は新しいモビリティの活用と同時に、AI カメラ・センサー等を活用したリアルタイムに交通情報を取得・活用する「リアルタイム交通マネジメントシステム（everfleet）」を導入することで、南城市に点在する観光地間をつなぎ、回遊性の向上を図るとともに、地域住民および観光客のみなさまの移動ニーズを満たす次世代の公共交通機関網の実現をめざします。

2. 調査事業の概要

本事業では、自動運転レベル 4 による通年運行の早期実現に向けて、自動運転の安全性を確認・検証するため、以下 3 点を調査事業として実施いたします。

- ①実証走行ルート（公道）上での自動運転モビリティの走行実証、実証走行ルート上の危険箇所の確認および対策として、リスクアナリシスの実施
- ②周囲の物体との位置関係を正確に判断するため、高精度センサーでのデータの取得および高精度 3D マップの作成
- ③道路交通法や地域住民のみなさまのご要望を踏まえたルート情報の作成

(1) 実証期間

2024 年 10 月 12 日（土）から 2024 年 10 月 18 日（金）まで

(2) 実施場所

沖縄県南城市（知念体育館前駐車場～がんじゅう駅～斎場御嶽駐車場間を走行、図 1）

(3) 使用車両および自動運転技術（図 2）

新型 EV バス車両 NAVYA EVO

- レベル 2 自動運転システム対応
- 乗車定員 12 人（実証実験時の乗車人数 10 人）
- 速度 19km/h
- EV（最大走行 9 時間、走行距離 100 km）



図 1. 実証走行ルート



図 2. 自動運転 EV バスイメージ

3. 各者の役割

(1) 南城市

事業全体の運営、関係者との調整、地域住民や観光客へのヒアリング調査 等

(2) NTT 西日本

調査事業統括・プロジェクトマネジメント 等

(3) NTT ビジネスソリューションズ※¹

自動運転導入エンジニアリング、自動運転の走行ルート調査 等

(4) マクニカ

自動運転導入エンジニアリング（車両）およびサポート、
走行ルートにおけるリスクアセスメント

等

※1 NTTビジネスソリューションズの「自動運転 EV バスソリューション」のサービス
詳細は以下 URL をご参照ください。

https://www.nttbizsol.jp/service/ev_autonomous_bus/

4. 今後の展開

本事業の調査を踏まえ、4 者は、2028 年度に自動運転サービス（レベル4）を社会実装できるよう、今後も実証調査を積み重ね、自動運転サービスの提供に必要な諸課題（運行体制の構築等）の解決に取り組めます。

こうした取り組みを通じて、南城市に点在する観光地間をつなぐ次世代の公共交通機関を整備し、南城市の回遊性を高めるとともに、地域住民および観光客のみなさまが安心して利用できる高品質で安全性の高い自動運転サービスの実現をめざします。

（参考）本件に関連する過去の報道発表

- 内閣府「先端的サービスの開発・構築や先進的サービス実装のためのデータ連携等に関する調査事業（2次募集）」の実証開始および開会セレモニーの実施について（2024 年 2 月 22 日）



《各者の報道発表資料》

NTT 西日本： https://www.ntt-west.co.jp/newscms/okinawa/13720/okinawa_n20240222a.pdf

マクニカ： <https://www.macnica.co.jp/public-relations/news/2024/144873/>

- 国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転社会実装推進事業）」の採択に関するお知らせ(2024 年 7 月 10 日)

https://www.ntt-west.co.jp/newscms/okinawa_info/13932/okinawa_i20240710a.pdf

- マクニカ、自動運転の社会実装に向けて芙蓉リースグループと業務提携～自動運転の実証実験を支援するサービスプログラムを共同で構築～(2021 年 6 月 16 日)

本事業で使用する自動運転 EV バスは、マクニカと芙蓉総合リース株式会社および芙蓉オートリース株式会社が共同で構築した「自動運転実証実験支援サービスプログラム」により提供します。詳細は以下 URL をご参照ください。

<https://www.macnica.co.jp/business/maas/news/2021/136501/>

※ニュースリリースに記載されている情報は、発表時点のものです。現時点では、発表時点での情報と異なる場合がありますので、あらかじめご了承くださいとともに、ご注意をお願いします。